日時：平成29年11月24日（金）15:00～17:00

司会：教頭

出席者：学校協議会委員（5名）

（株）エルアイ武田（人材開発室 室長）

大阪知的障害雇用促進建物サービス事業協同組合（事務局次長）

北河内西障害者就業・生活支援センター（主任就労支援ワーカー）

枚方市村野区（区長代理）

本校PTA（会長）

学校長 事務局（9名）

1 資料の確認および次第説明（教頭）

2 校長挨拶

学校新聞「むらのだより」の紹介をもとに学校の最近の取り組みについての概要説明。あわせてご意見・ご提言の本日の協議へのお願い。

3 報告

① 「平成29年度学校教育自己診断の概要と診断票」について（首席）

「学校教育自己診断の実施について」概要を説明した後に「学校教育自己診断票 質問項目」について、今年度は共生推進教室の質問項目を別だてにするなど、変更点を中心に説明した。

② 「むらの高等支援学校3学科6分野の実践報告」（学科統括）

地域社会とつながる授業について各学科・分野の取り組み状況について説明した。

《リビングデザイン科》

○クリーニング分野：

校外での集配（ギンガ保育園・枚方社会福祉協議会・枚方信用金庫・村野、星ヶ丘の自治区等）

○福祉分野：

高齢者介護施設での活動・枚方市介護予防体操（ひらかたくらわんか体操）の啓発活動・子育て支援事業のボランティア協力等

《フードデザイン科》

○食品加工分野：

学校祭や天の川カフェ（以下カフェ）で、クッキー、マドレーヌ、パンの販売等

○農園芸分野：淀川河川公園での花壇植え付け・学校祭での野菜販売等

《プロダクトデザイン科》

○木工分野・窯業分野：

近隣住民と教職員向けの販売会・万博公園イベントでの販売会、学校祭での販売・カフェでの製品販売等

③ 「学校経営計画の進捗状況」について（校長）

第一回学校協議会でいただいた意見を基に学校経営を進めている。

今年度の重点内容（資料④の口囲みと網掛け部分）を中心に説明した。

4 協議

C委員：フードのパン講師について、外からの刺激（教員以外からの指導）があることは良いと思う。

A委員：専門学科の授業の割合は？

事務局：6コマ/日×5日=30コマ 1年8コマ 2年8コマ 3年10コマ
週のうち1/3程度の授業時間数を占める。

B委員：食品を扱う場合の衛生管理についてはどうしているのか？

昨今、アレルギー関係等うるさく言われているのでその対応を知りたい。

校長：生徒については、授業での座学、実習で手洗いの実践と徹底、調理場へ入室時の靴の履き替えや服装の徹底、菌についての見える化の授業などを行っている。

A委員：製菓の食品材料などの表示は資格のある教員が行っているのか？

校長：担当教員が食品衛生管理者の資格を有している。

食品加工室は、枚方保健所の許可をとっており、販売物についての条件を指示いただいている。

D委員：地域でクリーニングやカフェ、販売会等の案内を見たことがない。

回覧板など協力するので村野区へのお知らせもしてもらえたらと思う。

校長：自治会への案内は、2ヶ月に1度、地域の会議で行っている。しかし十分でないことは承知。回覧の話は有難い。本日、カフェを利用頂いた近隣の団地にお住まいの方からも同じことを言われた。そのなかで、団地の掲示板に掲示してはとアドバイスをいただいたところ。

A委員：パンやクッキーはどこで売っているのか？保護者はどのように利用しているのか？

E委員：カフェは学校に来たついでに利用している。以前、子どもがパン講習で作ったメロンパンを持ち帰り食べたが、とてもおいしかった。より多くの人に知ってもらいたいが、たくさん作っているわけではないようなので難しいと思う。だが、もっと発信してもらえると良い。

A委員：学科の変更は途中でできないのか？色々な経験をすることで、本人も指導者も職種の適性、職場とのマッチングについてわかることや気づくことがあると思う。

事務局：全ての学科を経験する一定の時間をかけて本人の希望と学校での見極めを含めて専攻する学科を決定している。

C委員：時間をかけて決めているので変更しなくても大丈夫ということか？

E委員：職場実習は専門学科の内容に関連した職種の企業へ行くのかと思っていたが、子どもは様々な職種の実習をさせてもらっている。その中で多くの経験を得られていると思う。

事務局：所属する学科のスペシャリストになるための学科の授業ではなく、どの学科も仕事をするうえで必要な基礎的なこと学ぶ授業である。（つまり所属学科により就労する職種がせばめられることはない。）

A委員：個別の指導計画の今年度の変更点は？

事務局：個別の指導計画の変更は、5つの個人の目標が3つの目標になった点、評価が3段階表記から手だてを含め文章表記になった点である。

A委員：目標は数値化されているのか？

事務局：すべてではないが、できるだけ具体的に、達成数値目標を示すようにしている。

A委員：新規に通知表を取り入れた理由は？

事務局：個別の指導計画は、生徒には難しい表現になっている。生徒にとってわかりやすい評価を、というところがスタート。

生徒の実態に合わせた表現や指導者の想いを伝えることができるように、ということで個別の指導計画とは別に設定した。

E委員：中学校とは違い、最初はすごくたくさんの量の評価表をもらい驚いた。だが、読んでいくうちに子どものことをしっかり見てもらっていると感じた。

A委員：子どもたちにとって、わかりやすいものになっているか？

E委員：分量的に多く、簡単に理解できにくいですが、表記はわかりやすいと思う。

C委員：クールダウンスペースはどこに設置され、どれくらいの頻度で使っているのか？

事務局：場所は、カフェの入り口横のスペースに設置している。1年生には必要性のある生徒が在籍しており、前期の早い段階（5月）で支援部が中心となり、設置した。「お一人様スペース」と名称し、前もって使用についてのルールを教員・生徒に説明し掲示した。

1年生の利用が多く、集団での活動が難しい時、口頭やカードを提示し、利用したい旨を教員に伝えるようにしている。利用にあたり、あらかじめ利用終了の時刻を本人と確認している。タイムタイマー等も使用している。

B委員：3年生の就労の状況は？

事務局：今年度の3年生は30名。今のところ28名が就職活動を行っている。現在、半数以上の生徒が現場実習後に指定校求人をもらい、うち数名が内定している。残りの生徒は面接待ち、実習待ちなど。

B委員：希望したところには行けるのか？

事務局：すべての生徒が希望したところというのは難しいが、1年生から2年生にかけて様々な職種の実習に行き、2年生の終わり頃には希望職種が絞り込まれてきた。それを受けて、学校は3年生での雇用を前提とした現場実習先を開拓し、生徒は実習に参加し、就職活動を行っている。

A委員：外部講師とは？

校長：府教育庁の制度を利用。人材バンクを利用した、ボランティアに近い形で来ていただいている食品加工のパン講師などと、福祉医療人材活用事業を利用した有資格講師の2種類がある。

後者は、府の査定により利用回数が決めてられており、現状では必要回数来てもらうことは難しい。今年度は、（臨床心理士に加え）新たに作業療法士（OT）に来ていただいている。

事務局：教員とは違う視点で生徒たちを見てもらえるので、とても勉強になる。特定の生徒だけでなく、教室を周るなかでたくさんの生徒を見てもらえる。もっと来ていただきたい。

A委員：以前OTの方にソーシャルスキルトレーニング（SST）で従業員がお世話になった。職場でのコミュニケーション力を高めるねらいで来ていただいたのだが、かかわる側の我々支援者の言葉がけのスキルも大切だということもわかった。

D委員：自治会所有物のクリーニング等でも協力したい。どの程度の分量を依頼すればよいか？またカフェの利用については老人会等に知らせてもらえればと思う。

校長： 有難いお話し。担当者と相談する。

A委員：学校祭で地域住民との交流はあるのか？

事務局：一般の方は、インターネットでの申し込みをお願いしている。
地域住民の方対象の特別な申し込み方法は、今のところはない。

A委員：共生推進教室の生徒さんが弊社に実習に来られたときに、設置校のブラスバンド部に入っていて楽しいといていた。部活動を通じて設置校と交流するのもよいのではないか？

事務局：これからの課題として取り組んでいきたい。

5 校長挨拶

6 事務局より

次回、第三回学校協議会 3月5日（月）15：00～17：00